とっとり土地改良だより

発行
水土里（みどり）ネットとっとり
鳥取県土地改良事業団体連合会
〒680-0911 鳥取市千代水四丁目37番地
TEL (0857) 38－9500 FAX (0857) 38－9577
http://www.totirengogonet.or.jp
印刷所　日ノ丸印刷株式会社

美しく豊かなむらづくり大会2023
（湯梨浜町「ハワイアロハホール」）

目次

○「美しく豊かなむらづくり大会2023」を開催 …… 2
○令和５年度「農業農村整備の集い」及び「要請活動」 …… 3～4
○第45回 全国土地改良大会 福井大会 …… 5～6
○「2023ため池フォーラムinとっとり」でため池サポートセンター、中国四国水土里ネット女性の会をPR …… 6
○中部土地改良事業推進協議会が島根県で視察研修 …… 7
〔シリーズ〕
○あつまれ、水土里（みどり）のなかまたち …… 8
○編集後記 …… 8

「美しく豊かなむらづくり大会2023」を開催

11月1日(水)に「ハワイアロハホール」(湯梨浜町)において、『美しく豊かなむらづくり大会2023』を開催しました。

当日は、会員はもとより、多面的機能支払活動組織など約350名の参加がありました。

開会にあたり、榎本会長から「ほ場整備事業等で整備した農地を耕作放棄地にはしない。これは、土地改良区の役割のひとつであり、優良な農地を未来に残して頂きたい。」と挨拶がありました。

続いて、中国四国農政局 古賀徹 局次長、鳥取県 農林水産部 岡垣敏生 部長より来賓として祝辞を頂きました。次に、土地改良事業に長年の功績があった個人の方へ土地改良功労者表彰を行いました。

講演では、鳥取県 農林水産部 農業振興局 農地・水保全課 谷田恭伸 課長補佐から「県内土地改良区の課題と体制強化に向けて」と題して、「県内土地改良区の概要」、「県内土地改良区の課題」、「土地改良区の体制強化に向けて」の3点を主に説明がありました。

続いて、「中村哲医師の功績－大地を潤す命の水(用水路)を求めて－」と題して、元アフガニスタン現地駐在員(ほのぼのハウス農場代表)山口敦史さんの講演がありました。

冒頭に中村哲医師の功績がわかるDVD映像を流した後、現地で撮影した写真を映しながら当時のアフガニスタンで苦労した実体験、そして感じたこと等をお話して頂きました。

なお、本年度も閉会後に、とっとり水土里の女性会が環境保全活動で砂丘地に植付し、収穫したサツマイモを来場された方に配布しました。

元アフガニスタン現地駐在員 山口敦史さん

土地改良功労者表彰　受賞者

第63回 土地改良功労者表彰 受賞者

氏　名	職　名	所属団体名	氏　名	職　名	所属団体名
山根　　健	理　事	福部土地改良区	進　　修	監　事	東伯町土地改良区
前田　節夫	理　事	岩美土地改良区	池島　義廣	理　事	大谷溜池土地改良区
谷口　博義	理　事	岩美土地改良区	伊達　孝志	総括監事	尾高井手土地改良区
徳田　和幸	(前)理事	上北条土地改良区	勝部　浩美	理　事	大山町名和土地改良区
太田　里美	理　事	久米ヶ原土地改良区	田邊　雄一	理事長	箕蚊屋土地改良区
藤井　　覚	理　事	久米土地改良区	長谷川禎信	理　事	米子市尚徳三ヶ堰土地改良区
日野　昇一	理　事	関金土地改良区			

令和5年度「農業農村整備の集い」及び「要請活動」

全土連　二階俊博　会長挨拶

11月7日（火）砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」（東京都）へ全国の農業農村整備関係者約1,240人が参集し、全国水土里ネット主催による「農業農村整備の集い」が開催されました。

本県からは、鳥取県農業農村整備事業推進協議会 榎本武利副会長、東部土地改良事業推進協議会から神谷博文 理事長、中部土地改良事業推進協議会 山崎正美 会長、西部土地改良事業推進協議会 陶山清孝 会長、とっとり水土里の女性会 檀床和子 会長、水土里ネットとっとり 中村均 常務理事、柏木大作 倉吉事務所長、谷本彩子 総務企画課 主事が参加しました。

最初に、全国土地改良事業団体連合会 二階俊博 会長が主催者として挨拶されました。

次に、来賓として宮下一郎（農林水産大臣）、高市早苗（経済安全保障大臣）、森山裕（自民党総務会長）、細田健一（自民党 農林部会長）、進藤金日子（都道府県土連会長会議顧問）、宮崎雅夫（都道府県土連会長会議顧問）から挨拶がありました。

最後に、千葉県土地改良事業団体連合会 小島 参事から国に対して以下の要請文が読み上げられ、全会一致で採択されました。

1. 土地改良事業の計画的な推進のため、必要な予算を安定的に確保すること。
2. 食料・農業・農村基本法の見直しに当たっては、次の観点に留意して必要な規定を盛り込むとともに、関連する制度や事業・支援の一層の充実を図ること。
   (1) 農業の競争力強化や、国産農産物の増産による輸入農産物からの置換え等を図っていくため、「農地の区画の拡大」や排水改良による「水田の汎用化」が引き続き重要であること。
   (2) 農業用水を安定的に確保するため、「農業用用排水施設の機能の維持増進」が引き続き重要であり、さらに、頻発する突発事故等を踏まえ、「農業生産の基盤の整備」に加えて、農業生産の基盤の保全管理が重要となっていること。
   (3) 豪雨災害や大規模地震のリスクを踏まえ、農業・農村の防災・減災対策の強化が重要となっていること。
   (4) 中山間地域等直接支払のみならず、基本法制定後に法定化された多面的機能支払が、農地・農業用水の維持等を図る上で重要な役割を果たしていること。
   (5) 農業の生産基盤の整備及び保全管理に関する技術の開発及び普及が重要であること。
   (6) 土地改良区は、食料生産に不可欠な農地・農業用水の整備及び維持管理という公共的役割を果たしており、食料安全保障の強化に向けて、運営体制の強化を図る必要があること。
3. 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めること。また、災害対応のデジタル化など、事務手続の効率化等に向けた取組を推進すること。
4. 農業の競争力強化のため、農地の集積・集約化、米から高収益作物への転換、スマート農業の導入を促す農地整備を引き続き推進すること。
5. 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を引き続き推進するとともに、燃料価格や電力料金が高騰する状況下においても安定的な用水供給等が可能となるよう対策を推進すること。

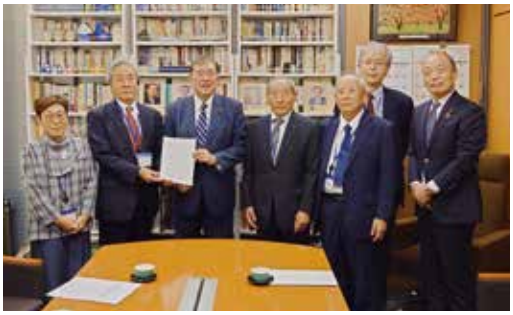
6. ICT、AI等の先進技術を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進すること。
7. 中小規模の土地改良区を対象とした合併など、土地改良区の運営基盤強化に対する支援を推進すること。
8. 流域治水の取組推進に当たっては、関係する農業水利施設の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担や責任が生じないよう配慮すること。
9. 水田活用の直接支払交付金の見直しに伴う水田の畑地化を進めるに当たっては、現場の実情を踏まえ、引き続き必要な措置を講ずること。
10. 上記事項の推進に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

集い終了後に農林水産大臣政務官及び鳥取県選出の国会議員事務所を訪ね要請書を提出しました。

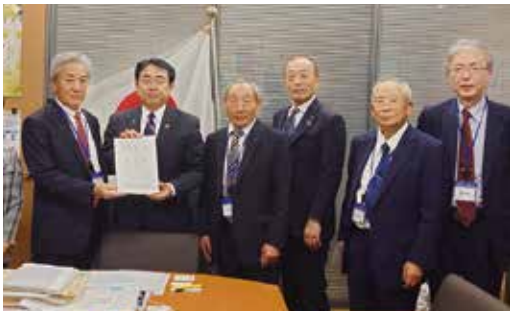
【要請活動】　令和5年11月7日(火)　場所:農林水産省 政務官室

舞立昇治 農林水産大臣政務官

【要請活動】　令和5年11月7日(火)、8日(水)　場所:議員会館

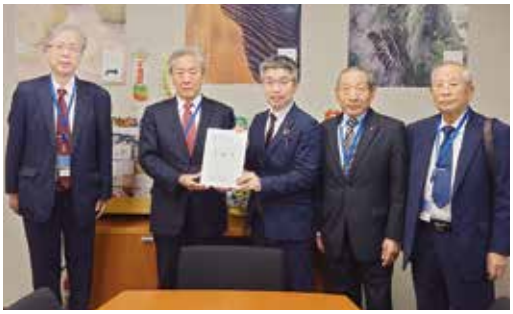


石破　茂　衆議院議員



赤澤亮正 衆議院議員

青木一彦 参議院議員



藤井一博 参議院議員

第45回 全国土地改良大会 福井大会

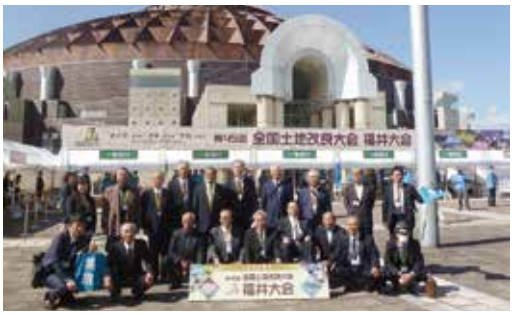
第45回 全国土地改良大会「福井大会」が10月11日(水)、サンドーム福井で、『水土里(みどり)がある　幸福(しあわせ)がある　笑顔がある　～ふくいで語る土地改良の未来～』を大会テーマに掲げ、全国土地改良事業団体連合会・福井県土地改良事業団体連合会主催により、4,000名を越える全国の土地改良関係者参加のもと盛大に開催され、本県からは19名が参加しました。

式典では、最初に福井県土地改良事業団体連合会 山﨑正昭 会長が開会挨拶され、続いて、全国土地改良事業団体連合会 義經賢二 副会長が主催者として挨拶されました。また、杉本達治 福井県知事、山田賢一 越前市長、佐々木勝久 鯖江市長が歓迎のことば、武村展英 農林水産副大臣、稲田朋美 衆議院議員、進藤金日子 参議院議員、宮崎雅夫 参議院議員が来賓として挨拶されました。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰(6名)、農村振興局長表彰(16名)、全国土地改良事業団体連合会長表彰(44名)がそれぞれ表彰され、本県からは、本会の代表監事であり、淀江宇田川地区土地改良区 渡邉柾城 理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

基調講演では、「未来へつなぐ土地改良」と題して農林水産省 青山健治 農村振興局次長が講演され、続いて「土地改良における男女共同参画の取組」として福井県の優良地区事例紹介がありました。

最後に、次期開催県である千葉県土地改良事業団体連合会 森 英介 会長へ大会旗が引き継がれ、閉幕となりました。


大会会場（サンドーム福井）

榎本会長（左）、渡邉理事長（右）

翌日の10月12日(木)は、世界かんがい施設遺産に登録された足羽川頭首工及び堂田川、並びに敦賀西部地区圃場を視察。足羽川頭首工は、受益面積1,980haをかんがいする水源施設で、堤長103.7m 堰柱6基 魚道2ヶ所を備えた可動堰で農業用水のみならず、地域用水としても高い評価を受けています。堂田川は、「歴史の流れとの共振」をテーマに景観に配慮した材料により整備され、地域住民に親しまれる水路として再生されていました。

足羽川頭首工での集合写真

足羽川頭首工説明状況

堂田川視察の様子

また、敦賀西部地区圃場は、3集落にまたがる約150haを受益とする水田地帯で、狭小田、軟弱地盤、慢性的な水不足を解消するため基盤整備に着手されたそうです。ため池の新設や用水路のパイプライン化により農業用水の安定供給が図られていました。

本地区ではスマート農業の導入を前提に、徹底した省力化を目指しており、自動給水栓・FOEAS（フォアス）を採用し水管理労力の削減、畦畔等を幅広で緩傾斜にし、乗用又はラジコン草刈り機による草刈り労力の削減など、様々な取組みによる整備が現在も進められています。

畦畔・溝畔のハンマーナイフモア（乗用）による草刈り

自動給水栓（スマートフォン等による遠方監視制御）

「2023ため池フォーラムinとっとり」で ため池サポートセンター、中国四国水土里ネット女性の会をＰＲ

11月9日（木）とりぎん文化会館（梨花ホール）において、全国のため池関係者450名が参加し、「2023ため池フォーラムinとっとり」が開催されました。

ため池は、地域にとってかけがえのない存在であり、このような鳥取のため池を全国の方々に知っていただくとともに、ため池の多面的機能の理解を深め、今後のため池の保全活動や地域活性化につなげることを目的として、「豊かな農村ささえるため池」をテーマに開催されました。

当日は、本会に設置されている「ため池サポートセンター」の活動動画や中国四国管内で活動されている「各水土里ネット女性の会」のパネル展示等により本会職員がPRしました。

「ため池サポートセンター」のブースでは、全国から来られた関係者から本会サポートセンター職員に、「鳥取県は、どのような取組等を実施しているのか。」など、情報交換の場となっていました。

なお、令和6年度のため池フォーラムは秋田県で開催されることが既に決定しています。

ため池サポートセンターのブース

中国四国水土里ネット女性の会パネル展示

中部土地改良事業推進協議会が島根県で視察研修

中部土地改良事業推進協議会（会長 山崎正美）は、11月21日（火）～22日（水）に島根県において視察研修を行いました。この研修は、会員の行う土地改良事業の推進、調査研究を行う目的で15名が参加しました。

視察先は、島根県飯石郡飯南町にある島根県中山間地域研究センターを訪れました。同センター板倉さんの説明によると、「野生動物の特徴としては、臆病で警戒心も強いが学習能力は高い。効率良く捕食出来る場所に現れる。痛い思いをした所には近づかない。」等でありました。野生動物による農業被害対策の例としては、メッシュ柵を地面に突き刺し強度を上げる。電気柵は20cm、40cmの高さを守り常時通電状態にする事で、電気ショックを受けた動物は近寄らない。効率よく捕食可能な柿等の実を無くすことによる動物をおびき寄せない環境作り等が必要だそうです。

まとめとして、①野生動物が嫌がる環境作り②田畑を効果的に囲う③適切に捕獲する。を同時に行うことが必要であると説明を受けました。

翌日は、出雲市斐川町にある出雲市斐川土地改良区を視察。同改良区の概要、女性理事登用の効果、管理運営の現状と課題及び今後の取組みについて説明を受けました。また、斐伊川河床洗堀等により安定取水が出来なく苦慮している問題や宍道湖隣接地の地盤沈下問題など、標高が低い土地ならではの課題と、広大な平野でありスマート農業がしやすい環境だと感じました。

その後、農事組合法人「ふくどみ」を訪れ、高橋副代表理事からスマート農業の取組みについて説明を受けました。RTKを利用した自動操舵機器の導入やドローン散布などによる営農の効率化で生産性の向上が図られているそうです。特に自動操舵機器の導入は、営農方法が劇的に変わるのでお勧めされていました。

両日とも晴天に恵まれ、時間的に余裕のある視察研修であり、それぞれの視察先で質問も多数でるなど内容の濃い充実した研修となりました。

農業被害対策ついての説明

出雲市斐川土地改良区についての説明

農事組合法人「ふくどみ」を視察

農業機器についての説明

あつまれ、水土里のなかまたち

愛と絆のある農業・農村をめざして
水土里を愛する
なかまたちを順次ご紹介

鳥取大学農学部　生命環境農学科　アグリビジネス会計学分野　講師　木原　奈穂子

みなさま、はじめまして。鳥取大学農学部の木原と申します。調査で水土里ネットとっとりさんにお世話になり、仲間入りさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

私の研究分野をご紹介する前に、私の生い立ちを簡単にご紹介させてください。私は大学に進学するまで、農業とはまったく関わりのない新興住宅街の中で生活してきました。何かを育てるのも、小学校の理科の授業で育てたアサガオくらい…大学で農学部に進学して、農業の専門用語や農村を取り巻く環境を始めて学び、その奥深さに四苦八苦しました。一方、実習で農家さんのところに訪れてお話をお伺いしたり、農村地域で開催されるイベントに参画させていただいたりといった経験が、とても楽しくもありました。たくさんの学びをいただいた農業・農村の現場をどうやったらもっと楽しくできるのか、という研究を進めるうちに、今の職をいただくことになりました。

私は、農業・農村をもっと楽しくするためのお金の流れの研究「農業会計」を専門としています。お金をどこから獲得してきて、どのように使うのか、その管理を誰が担うのかは、農業経営はもちろん、地域運営にも重要な視点かと思います。お金が関わる活動はすべて研究の対象となるため、農業経営だけではなく、地域で問題となっている草刈りを担う新たな組織「畦畔管理組織」を対象とした研究や、自治会や地域運営組織といった地縁組織の維持・活性化の研究も行います。今は、草刈りが社会問題になっていることもあり、農業会計の研究のイメージよりも、畦畔管理組織の研究をしているイメージの方が強く、一部の関係者には「草刈りおばさん」と呼ばれています（実際に草を刈り回っている訳ではないのですが…）。

さらに研究室では、学生は自分の興味に沿って自由に研究テーマを設定します。ですので、私がおぼろげにしか知らないテーマが噴出し、てんやわんやの大騒ぎです。循環型農業や地域ブランドといった農業経営に関わる研究をする学生もいれば、地域食堂・子ども食堂の運営や地域の伝統文化の維持といった、地域に関わる研究をする学生もいて、私も毎日勉強の日々で学生と一緒に楽しんでいます。夏には、まちづくりを知るためのまち歩き、冬には調査方法を学ぶための合宿も行い、現場から学んでもらう機会をたくさん作りたいと思っています。また学生に良い機会がありましたら、ぜひご紹介ください！

合宿の様子

編集後記

この秋はカメムシの大量発生がすごいですね・・皆さまの周りも多いでしょうか？家の扉を開ける度にカメムシがいないか、ドキドキして開ける毎日です。

あっという間に雪もチラつき、寒さが身に染みる時期となりました。雑貨屋さんで、かわいい防寒グッズ達を新調し、気持ちも体もポカポカでこの年末を乗り切りたいと思います！（福政）